

牧師室から (2021.11.21)

街路樹のイチョウ並木が黄色くなったのを見ると、秋が深まったを感じる。この間妻とメグと一緒に、公園でぎんなんを拾った。高校生の頃、校庭に大きなイチョウの木があり、秋になると、近所の奥さんたちがその実を拾いに来ていたのを手伝った思い出がある。実を洗って乾かしたものを、少量の塩と共に使用済みの封筒に入れて、電子レンジでチンして食べる。その実は二つ筋のものと、それよりは少なめだが三つ筋のものがある。見た目には三つ筋の方が可愛くて好きなのだが、こちらはどうも割りにくい。イチョウは太古からの樹木なので、昔の動物や人間の祖先も食べていたのかなと思ったりもする。ゲーテが晩年に、東の国に思いを馳せて詠んだ詩があるのでご紹介する。

銀杏

東の国からはるばると
私の庭にうつされたこの銀杏の葉には
心あるひとをよろこばす
ひそかな意味がかくされています。

もともとこれは一枚の葉が
二つに分かれたものでしょうか。
それとも二枚がむすぼれ合って
ひとつに見えるものでしょうか。

この問いに答えようとして
わたしはほんとうの意味が分かりました。
私の歌を詠むたびにお感じになりませんか
わたしはひとり でもあなたとふたりでいるのだと。

(小塩節訳『西東詩集』より)

小生が銀杏の実を拾い集めているのに、かの詩人は葉の形でもって静かに想いを巡らせているのは、やはり天賦の資質が違うと感じた。

(鈴木淳一牧師)